

人形浄瑠璃

文楽

文楽座命名一五〇年
二〇二二年十月地方公演

「主催」公益財団法人文楽協会 「後援」文化庁 「助成」芸術文化振興基金・朝日新聞文化財団



昼の部
はなくらべしきのことば
花競四季寿より
まんざい さぎむすめ
万歳・鷺娘
めいど ひさやく
冥途の飛脚
はおりお
羽織落としの段
ふういんぎり
封印切の段



夜の部
だんご
団子
すがわらでんじつてならいかのみ
菅原伝授手習鑑
てらい
寺入りの段
てらこや
寺子屋の段



©青木信二

令和4年 **10月15日(土)** 昼の部 13:30 開演 (13:00 開場)
夜の部 17:00 開演 (16:30 開場)
ひらしん 平塚文化芸術ホール

神奈川文化プログラム
MAG CUL
マケカル
かながわ祭
県民文化祭



【最寄り駅からの所要時間】
JR東海道本線「平塚駅」西口から徒歩8分
神奈川中央交通「平塚文化芸術ホール前」から徒歩2分
神奈川中央交通「見附町」から徒歩4分

神奈川公演

■入場料／一般 A席3,600円・B席2,800円・C席1,600円・学生(U25)1,000円(全席指定)
昼・夜通し券：一般 A席6,000円・B席4,500円・C席2,200円

■チケット販売／チケットかながわ 0570-015-415 (10:00~18:00)
<https://www.kanagawa-arts.or.jp/tc/> ※9/2(金)10時から販売

※詳しくはHPで <https://www.pref.kanagawa.jp/docs/yi4/dentougeinou/bunraku2022.html>

■お問合せ／県立青少年センターホール運営課 045-263-4475 (横浜市西区紅葉ヶ丘9-1)

かながわ
か伝芸 能 祭

文楽座命名一五〇年

二〇二二年十月 地方公演 配役表

昼の部

解説 (あらすじを中心に)

豊竹 巨太夫

花競四季寿より

根茂郎陸平+振付

万歳

藤間紋寿郎+振付

鷲娘

竹本 小住太夫
豊竹 巨太夫
豊竹 薫太夫
鶴澤 藤友之助
鶴澤 清允

太夫 才蔵
才蔵 娘
吉田 清一郎
吉田 箕紫郎

近松門左衛門作

冥途の飛脚

羽織落としての段

豊竹 呂勢太夫

封印切の段

豊竹 呂太夫
鶴澤 清介

豊竹 勘十郎

花車 遊女梅川
遊女千代蔵
遊女鳴渡瀬
丹波屋八右衛門
丹波屋忠兵衛
龜屋忠兵衛
大延 吉田
吉田 勘十郎
豊竹 清次郎
吉田 勘十郎
桐竹 勘十郎
吉田 勘十郎
桐竹 勘十郎

豊竹 勘十郎
吉田 勘十郎
桐竹 勘十郎
吉田 勘十郎

豊竹 勘十郎
吉田 勘十郎
桐竹 勘十郎
吉田 勘十郎

囃子 望月太明藏社中

夜の部

解説 (あらすじを中心に)

豊竹 希太夫

団子売

竹本 三輪太夫
竹本 津國太夫
鶴澤 聖太夫
鶴澤 寛太夫
鶴澤 清方

豊竹 勘十郎
吉田 勘十郎
桐竹 勘十郎

菅原伝授手習鑑

寺入りの段

豊竹 希太夫
鶴澤 清公

豊竹 勘十郎

寺子屋の段

竹本 鏝太夫
竹澤 宗太夫

豊竹 勘十郎

豊竹 芳穂太夫
鶴澤 清志郎

菅秀才
よだれくり
女房戸浪
小太郎
下男三助
武部源蔵
春藤玄蕃
松王丸
御所丸
手習子
駕籠
捕百

菅秀才
よだれくり
女房戸浪
小太郎
下男三助
武部源蔵
春藤玄蕃
松王丸
御所丸
手習子
駕籠
捕百

囃子 望月太明藏社中

観劇当日に発熱や風邪のような症状のある方、体調のすぐれないお客様はご無理なさらず、来場をお控えください。
観劇時は咳エチケットの励行ならびに、マスク着用・手指消毒(手洗い)の徹底などの感染症対策にご協力のほどお願い申し上げます。

花競四季寿より 万歳・鷲娘

文化6年(1809)、大坂の御霊社内の芝居で初演。春夏秋冬をテーマにした4つの舞踊からなる作品で、春の「万歳」と、冬の「鷲娘」をお届けいたします。

かつてお正月には欠かせない存在だった万歳―太夫と才蔵が、独特の雰囲気や漂わすてにぎやかに新春を奏き、「鷲娘」では、白鷲の精が、降り積もる雪に耐えながらも、やがて来る春の兆しを見つけ、喜びます。

冥途の飛脚 羽織落としての段・封印切の段

竹本座で正徳元年(1711)7月以前に初演されたと推定される、近松門左衛門の上中下三巻の世話物。飛脚屋亀屋の養子忠兵衛が金を横領、遊女を請け出して逃亡した事件をもとにしています。

忠兵衛は、愛する遊女梅川を他の客に身請けさせまいとして、友人八右衛門宛に届いた金を、身請けの手付金に流用。八右衛門に事情を話し、謝罪しましたが、金はまだまだ足りません。

夜、急ぎの金300両を届けるため、武家屋敷へと向かう忠兵衛。ところが、いつのまにか、足は梅川がいる方へ。梅川に会いたいいや、金を届けなければ…迷いに迷い、行ったり来たり。とうとう、羽織が脱げ落ちたのにも気づかず、遊廓へ。

そこで立ち聞きしたのは、八右衛門の話。金に詰まった忠兵衛の行く末を案じ、廓から遠ざけようとしてのこととはいえ、金の使い込みを暴露する、嘲罵にも似た言葉に、生来短気な忠兵衛は、逆上。梅川の嘆きも耳には入らず、金なら持っている、300両の封印を切つて、金を八右衛門に投げつけ、梅川を身請けして逃走…。

忠兵衛が理性を失い破滅していくさま、人間の弱さ、愚かさをみこくに描いた近松の代表作の一つです。

団子売

江戸時代、臼と杵を持ち歩き、団子を作つて売つていた団子売。一搦きこに杵を振り、臼を叩いて、人集めをしたようで、その様子は、月の兎が団子を搦く、清元の歌舞伎舞踊『玉兎月影勝』(1820)に取り込まれました。これももとに作られたのが、本作。若い夫婦が団子を搦き、踊りを披露するということで、歌舞伎舞踊に逆輸入されています。

菅原伝授手習鑑 寺入りの段・寺子屋の段

平安時代、右大臣菅原道真は、左大臣藤原時平の讒言により、大宰府に左遷され、失意のうち亡くなり、怨霊に。雷神として恐れられ、その後は学問の神様として慕われ、今日に至っています。本作は、さまざまな天神(道真)伝承を取り入れて、竹田出雲(初代)、並木千柳、三好松洛、竹田小出雲(二代出雲)が合作し、人形浄瑠璃の黄金期、延享3年(1746)に竹本座で初演。浄瑠璃三大名作の一つに数えられる五段の時代物で、中でも最もよく上演される四段目をご覧いただきます。

道真の領内に住む百姓の三つ子の兄弟は、道真の計らいで、それぞれ、親王、時平、道真に舎人として仕える身。時平の讒言で道真が失脚すると、時平を主人とする松王丸は、道真方の親兄弟と敵対。

時平が命を狙う道真の若君を我が子と偽り匿うのは、道真の書の高弟で寺子屋を営む武部源蔵。しかし、それも発覚。若君の首を討てると命じられ、進退きわまった源蔵は、やむなく、その日に入門したばかりの男の子を身代わりに。首の検分役は、若君の顔をよく知る松王丸。その目をごまかせる可能性はほとんどなく、討ち死覚悟で首を差し出す源蔵と、意外にも、若君の首と松王丸が認め、うまく大丈夫と思いきや…。

松王丸は、道真に恩を受けながら敵対せざるを得ない立場に苦悩、若君を救つて恩に報いようと、身代わりが必要となる源蔵のもとへ我が子を―それまで悪人と思われて来た松王丸の本心、子を失った悲痛な思いが明かされます。

江戸時代に何万と存在し、道真が祀られていた寺子屋を舞台として、腕白ざかりの子供たちが笑いを誘う冒頭から、松王丸夫婦の悲しみが胸に迫る、名曲として知られる段切の「いろは送り」まで、緊迫感みなぎる屈指の人気演目です。

◎字幕表記がございます。席によっては字幕が見えにくい場合がございますので、あらかじめご了承ください。

◎出演者の急病やその他やむを得ない事情により、役役もしくは演目を変更して上演する場合がございます。あらかじめご了承ください。

◎開演中の写真撮影・録画録音ならびに携帯電話・スマートフォン等の使用は固くお断りいたします。